

ふるさとの和泉の山をきはやかに

浮けし海より朝風ぞ吹く

歌 意

和泉の山々のなだらかな稜線が朝の澄み渡った空にくっきりと見えています。海から吹いてくる今朝の風は、なんと心地よいことでしょう。

掲出歌集 『火の鳥』大正8（1919）年8月  
初出 「大阪毎日新聞」大正6年6月18日、題は  
「山雨餘滴」（晶子39歳）



- ・所在地 浜寺公園内（西区浜寺公園町2丁）  
阪堺線浜寺駅前駅または南海本線浜寺公園駅下車  
公園正門を入れて最初の辻を右へ 松林の中
- ・建 立 昭和41年7月17日 与謝野晶子の会
- ・デザイン 白石正義
- ・連絡先 浜寺公園管理事務所 072-261-0936

晶子と鉄幹（寛）が出会ったゆかりの地にぜひ歌碑を建てたいとの思いで建立された、「与謝野晶子の会」による最初の歌碑である。

明治33（1900）年8月3日鉄幹は新詩社支部拡張と強化、宣伝のため来阪し、北浜の平井旅館に泊った。4日、晶子と山川登美子は別々に鉄幹と初対面し、5日、大阪での講演にも二人は出席した。6日、鉄幹、晶子、登美子を含めて八人が堺の浜寺の寿命館で歌会を催す。8日、鉄幹の宿で歌会。いずれも晶子と登美子出席。9日、住之江で同人らと遊び、15日、晶子、登美子らと高師の浜で再会した。

碑のデザインは寿命館歌会での晶子の歌「わが恋をみちびくほしとゆびさして君さゝやまし浜寺の夕」の「ゆびさして」をイメージしたものである。

※平成元（1989）年に移転した現場所は、かつて歌会が開かれた寿命館に近い。